



北中だより



<http://nk-kitanaka-j.la.cocacn.jp/>

中野区立北中野中学校

★運動会を終えて…生徒の皆さんは何を手に入れましたか？

校長 津村 慶

5月18日(土)、気持ちの良い青空の下、開校以来第64回目となる運動会が開催されました。

区内では6月に実施する中学校が多い中、梅雨の季節を避けての日程調整でしたが、今年はGW後の天候が不安定で、思うように練習を進めることができませんでした。しかし皆さんは限られた時間の中で集中して取り組み、着実に練習を積み重ねていきました。早朝練習では個人種目を中心にバトンパスなどの精度を高め、授業時間中の練習では学年種目や演技種目を中心に準備を進めました。短い期間でしたが集中して取り組む様子は、実行委員会が考えた「万里一空」というスローガンそのものだったように思います。



そうして迎えた本番は、爽やかな青空のように清々しい運動会になりました。どの競技も最後まで諦めずに全力を出し切る姿は、見ていて気持ちの良いものでした。競技をしていない間に仲間を精一杯に応援する姿からも運動会を楽しもうという気持ちが感じられました。また、招集や誘導、放送や得点など、係の仕事に真剣に取り組むことで自分たちの力で運動会を作り上げようとする姿もたいへん立派でした。開会式で皆さんに話した「自分が出場する競技だけでなく、すべてにおいて全力を出し切る運動会」だったと思います。当日は保護者・家族に加え、来賓や地域の方々、卒業生など947名が来校し、用意した敬老席が足りなくなるほど高齢の方々もたくさん応援に来てくださいました。

競技、応援、係活動、すべてに全力で取り組んだ素晴らしい運動会でしたが、そんな運動会を通して、皆さんは何を感じ、何を手に入れたのでしょうか。練習段階では各学級とも、学年優勝や色別優勝を目標にしていたと思います。しかし、運動会当日を終えて掴んだものが、学年の優勝・準優勝や色別の勝敗結果だけで終わってしまったのでは、残念な気がします。それらは確かに目標の一つだったと思いますが、運動会にはそれ以上に大切なものがあります。

どのクラスも、練習の過程で上手くいかないことや思うような結果が出せないことがあり、多くの話合いをしたことと思います。クラスの中心になって考えてくれるリーダー達とそれに協力する他の仲間達。作戦会議や試行錯誤を繰り返すなかで、運動が苦手な仲間も含めて、クラスのみんなで頑張っていこうという連帯感や、先頭に立って引っ張ってくれる仲間と協力しようとする協調性が生まれたのではないのでしょうか。それこそが運動会で掴んでほしい最も大切なものです。

全学年の中で、3年生だけが学年全員での集団行動やダンスに取り組んでいるのは何故でしょうか。男子の集団行動も女子のダンスも、先生方の力はほとんど借りずに実行委員や体育委員が中心となって動きや振付、練習の進め方を考え、それに学年全員が協力することで演技が完成していきました。そこには一部の人だけが頑張るのではなく、学年全員の協力が必要です。これまでの運動会を経験する中で、クラスの枠を越えて仲間との絆を深めた3年生だからこそ、学年全員での演技種目を作り上げることができるのです。【裏面へ続く】



皆さんがこの先、成長して社会に出た時に、最も必要になる力は「周りの仲間と協力しながら一つのことに取り組んでいく力」です。どこの集団で、どのような人たちと一緒にいても、そこで良好な関係を築き、協力して物事を進めていく力こそが、これからの社会で活躍するために最も大切だと言われています。

3年生が見せてくれた集団行動やダンスを目標に、1年生は同じクラスの仲間との絆を、2年生はクラスの絆に加えて学年の仲間との協力をこれまで以上に深めることができれば、素晴らしい運動会だったと言えるでしょう。

今年の運動会を終えて、皆さんが将来にわたって必要なものをしっかりと身につけ、より大きく成長してくれることを期待しています。



北中野中学校区合同引取訓練



4月26日(金)に北中野中学校区のかみさぎ幼稚園、上鷲宮小学校、武蔵台小学校と協力した合同保護者引き取り訓練を実施しました。本校では1年生81名、2年生55名、3年生76名の合計212名が引き取りをしていただき、弟や妹がいるご家庭はさらに中学校から小学校へと向かっていただきました。保護者の皆様のご協力に感謝いたします。

今年は元日に石川県能登半島での大地震があり、被災地では今も断水や避難所生活が続いています。首都圏においてもいつ直下型地震が起きても不思議はないといわれる状況です。いざというときに子どもたちの安全を確保し、確実に保護者に引き渡せるよう、今後ともよろしく願っています。



「高遙会」総会の開催

本校の同窓会である「高遙会(こうようかい)」の定期総会が4月28日に体育館で開催されました。4年に1度開かれる総会ですが、前はコロナ禍で中止となったため、8年ぶりの開催となりました。

第1部の総会の後、第2部では現役中学生の活動紹介として、吹奏楽部が「ミッキーマウス・マーチ」と「学園天国」を演奏し、社会科探検部はField Work in Japanで優秀賞に輝いた「ローカルバス・なかのん～陸の孤島からの脱出～」の研究発表を行いました。また現在高校3年生である第61期卒業生が約60名参加して、タイムカプセルの開封式も行いました。

第3部は成人の会員のみでの懇親会となりました。各世代の卒業生が集まり、過去に北中野中学校で勤務した先生方も数多く参加する中、思い出話に盛り上がりながら旧交をあたためる様子に、北中への想いと「高遙会」を中心とした心の繋がりを感じ、嬉しい気持ちになりました。



前期生徒総会



5月10日(金)に前期生徒総会が行われました。生徒一人ひとりの意見を学校生活の改善に生かすために年に2回開催される生徒総会ですが、本校では、事前に提出された質問に生徒会本部や各専門委員会が答えるだけでなく、質問の回答を受けて一般生徒がその場でさらに協議をし、追加質問をする機会も設けられており、全校生徒がより良い学校生活について真剣に考える場となっています。今回も、生活委員会と整美委員会で「呼びかけや点検活動をより厳しくした方が良い。」といった意見の他、置き勉強に関する要望、昼休みのボール貸し出しに関する改善提案など多くの意見が出されました。

また、議案討議の後には校則の見直しについても意見が交わされました。今年で3年目となる生徒による校則の見直しですが、今回はスマートフォンの持ち込みや髪型と髪留めについて、靴下の色や給食の時間に関するルールの改定、タブレットの設定や軽食の持ち込みなど、様々な要望が出されました。生徒会本部役員や各専門委員長がその場で回答したものから、持ち帰って検討することになったものまで様々でしたが、生徒会本部を中心に中央委員会等で協議し検討していくでしょう。叶えられるものとそうでないものがあると思いますが、自由を主張する権利だけでなく、決まったことを守る義務についても、すべての生徒がしっかりと意識して実行できるようになりましょう。

第1回保幼小中連携教育協議会

5月15日(水)に今年度初めてとなる保幼小中連携教育協議会を開催し、かみさぎ幼稚園、上鷲宮小学校、武蔵台小学校の先生方が北中に来校しました。はじめに中学生の授業を幼稚園や小学校の先生が参観し、その後4校園の先生方が「生活指導(校則・きまり)」「あいさつ」「道徳」「読書」「ユニバーサルデザイン」「保健・給食」など10の分科会に別れて、今年度の連携教育の内容について協議しました。

今年度、北中野中学校区で新たに決めた連携のテーマは「互いを認め高め合う、笑顔あふれる北中野ファミリー」です。保幼小、小中、保幼中が互いに交流活動を進めながら日頃の指導にも連続性をもたせることで中学校卒業時の目標である「豊かな人間性の育成」に向けて、各学校段階でより効果的に指導を進めていきます。



保護者・地域の皆様へ…「保幼小中連携教育」について

昨年度の保護者向け学校評価アンケートにおいて「わからない」の回答率が高かった「保幼小中連携教育」について、その趣旨や具体的な取組内容等について改めて説明させていただきます。

中野区では、幼児期から小中学校までの15年間の発達と成長を見据えて、幼稚園・保育園等、小学校および中学校が教育内容や指導方法等について相互に理解を深めるとともに、幼児・児童・生徒の交流等の機会を充実させながら学校段階の円滑な接続を図ることを目的として保幼小中連携教育を推進しています。各中学校区を中心に保幼小中の学びの連続性に着目したカリキュラム連携をすすめ、系統的な教育課程を編成し意図的・計画的・具体的な教育活動を展開することによる効果的な連携を図っています。

その施策を受けて北中野中学校区では、かみさぎ幼稚園、上鷲宮小学校、武蔵台小学校を中心に保育園との連携も含めて保幼小中連携教育を進めています。

幼稚園及び小学校とは、年に2回行われる「連携教育協議会」の日に教員が相互の授業の様子を参観し、入学前や卒業後の子どもたちの様子を知ったうえで、学校生活のさまざまな分野に分かれて協議を行い、それぞれの学校・園での教育活動に統一性をもたせることでより効果的になるように連携を進めています。

小学校と中学校の接続については、年3回のオープンスクールで小学生が北中野中学校の教員の授業を受けたり、部活動体験をしたり、中学生の学校生活の様子を見学したりします。

また、中学生が授業で制作した作品を小学校の展覧会に展示してもらう他、合唱コンクールのリハーサルを小学生に聞きに来てもらうなどすることで、中学校生活の様子をより多くの場面で小学生に感じてもらっています。

一方、幼児との交流については、1年次には白鷺保育園の園児が体育館で1年生と遊ぶ「ふれあい交流会」を行い、2年次には職場体験学習で近隣の幼稚園や保育園を訪れて先生方のお手伝いをし、3年次には家庭科の保育実習として全員がかみさぎ幼稚園で園児とふれあう体験をします。これらの3年間の取組を通して、中学生は幼児との接し方や年長者としての思いやりの他、命の尊さなどを学ぶとともに自尊感情や自己有用感などを育みます。

その他にもボランティア活動として、中学生が小学校の運動会のお手伝いをしたり、夏休みには図書室で学習する小学生に中学生が勉強を教える「リトル・ティーチャー」、放課後にキッズプラザで過ごす低学年の児童への本の読み聞かせ、上鷲宮地区のお祭りのお手伝い、町会連合会が主催する初期消火操法訓練大会への参加など、様々なボランティア活動に取り組んでいます。また「北中フェスタ」や「きたなかの花火大会」では、来校した小学生や幼児を中学生が楽しませ、もてなすことでも交流を深めています。

保育園や幼稚園、小学校、中学校の幼児・児童・生徒が様々な活動や交流を通じて互いを知る中で、それぞれの存在を認め、上の学年の子への憧れや下の学年の子への思いやりといった心のつながりを大切にしながら、地域における連帯感を強く感じてくれることを期待しています。